



No.359
3月号

あたごふれあい人権文化センターだより
2024年3月1日発行

発行：あたごふれあい人権文化センター
住所：〒682-0846
鳥取県倉吉市鴨河内 1818-2
電話：0858-28-5440 (FAX 兼)
E-Mail：atago@ncn-k.net

あたごふれあい人権文化センターだより
「心ゆたかに」に関するご意見・ご要望を
お寄せください。

3月21日は「世界ダウン症の日」です。

エンド ザ ステレオタイプ
End The Stereotypes

2011年12月の国際連合総会において、「3月21日」が、ダウン症のある人たちとその家族、支援者への理解を深めていくための「世界ダウン症の日」として定められました。

日本ダウン症協会でのキャッチコピーは「**思いこみを 想いなおそう。**」です。人が他人や物事に対して抱く固定観念や先入観(思い込み)のことを「ステレオタイプ」と呼びます。ステレオタイプにはポジティブなものやネガティブなもの、中立的なものがありますが、その多くは不正確で、中には完全に間違っている場合さえあります。ステレオタイプは限られた情報や個人的な経験に基づいて形成されやすく、メディアの表現や文化的な価値観によって助長されることもあります。一度できあがったステレオタイプを変えるのは容易ではありません。

ダウン症や知的障がいのある人は、ステレオタイプによる「決めつけ」が原因で、他の人と平等に扱われる機会を奪われることがあります。子ども扱いされたり、過小評価され、仲間はずれにされたりするのです。時には著しく不当な仕打ちや、虐待を受けるケースまであるのです。そんな思いからこのキャッチコピーが決まりました。

思い込みや先入観は、視野を狭めるトンネルのようなものです。誰かを傷つけてしまうだけでなく、繋がりが合うことや自分自身の可能性すら閉ざしてしまう、とても大きな壁がそそり立ちます。

“もしかすると、その壁の向こう側に想像もしなかった豊かな個性が待っているかもしれない”

だから何かを決めつけてしまいそうになった時は、どうか少しだけ歩みを緩めて、そこにいる人を想ってみてください。まだ誰も気づいていない「わくわくする可能性」を想ってみてください。

思いこみを、想いなおす。きっと、見えている世界が変わるはずです。

<ダウン症とは>

正式名は「ダウン症候群」(最初の報告者であるイギリス人のジョン・ラングドン・ダウン医師の名前により命名)で、染色体の突然変異によって起こり、通常、21番目の染色体が1本多くなっていることから「21トリソミー」とも呼ばれます。この染色体の突然変異は誰にでも起こり得ますが、ダウン症のある子どもは胎内環境がよくないと流産しやすくなるので、生まれてきた赤ちゃんは淘汰という高いハードルを乗り越える強い生命力をもった子どもなのです。(裏面につづく)



差別落書きは重大な人権侵害です！

※差別発言に遭遇した場合や差別落書きを発見した場合、また悩みごと、生活に困っていることなど、人権政策課または最寄りの人権文化センターへご相談ください。

人権政策課

TEL 0858-22-8130

あたごふれあい人権文化センター

TEL 0858-28-5440



ダウン症の特性として、筋肉の緊張度が低く、多くの場合、知的な発達に遅れがあります。発達の道筋は通常の場合とほぼ同じですが、全体的にゆっくり発達します。

心疾患などを伴うことも多いのですが、医療や療育、教育が進み、最近ではほとんどの人が普通に学校生活や社会生活を送っています。

Q1:ダウン症は病気ですか？

人間は一人ひとり、違いをもっています。ダウン症は、生まれつきの特性(性格や体質のようなもの)の一つと考えたほうが良いと思います。

Q2:友達をつくることはできますか？

もちろん！明るくてやさしいのがダウン症がある人たちの自慢です。人なつこい性格で、学校でも職場でも、たいていの場合、うまく溶け込むことができます。

Q3:ダウン症の大人とは、どう接すればいいの？

コミュニケーションをとるときには、「伝え方」の工夫が必要になってきます。

言葉での会話が一目盛り立っていても、詳しい内容までは伝わっていない、多くの事柄を一度に伝えると覚えきれない。内容を理解できないなどのトラブルが起こることもあるでしょう。

「ちゃんとやって」などは抽象的な表現です。どうしてほしいのか「具体的に伝える」ことが大切です。

Q4:コミュニケーションをとるときは？

成人後のダウン症の人たちは、穏やかに過ごせている人だけではありません。職場や家庭などの環境変化に対処しきれず精神的な不安が強くなったり、身体のおちこちに不調がみられたりしていきます。自分で伝えることが難しい人もいますから、接する人が推測をしていくことも必要になるでしょう。

コミュニケーションの方法は、話し言葉だけでなく、ジェスチャーや絵など、相手がわかりやすい方法を探していくことを忘れないようにしてください。

Q5:JDS版「わたしの健康パスポート」とは？

「わたしの健康パスポート」は、病院の医師や施設の指導員の方が、どのようにダウン症のあるご本人に対応したらいいか参考になるような情報を上げておくためのものです。ダウン症のあるご本人が突発的な事故や病気で搬送されたり、また災害などで避難をすることになった時、ご本人を理解している保護者や家族の方が、ご本人と必ずしも一緒にいられるわけではありません。また、逆に保護者・支援者の方が病気や災害に遭って、ご本人とともにいられなくなることもあります。そんなときの備えのひとつに、ダウン症のあるご本人の個人的な状況や特徴についての情報をわかりやすくまとめたメモが役立ちます。ダウン症のあるお子さんのための母子手帳の役割を果たす子育て手帳などもあります。

※JDS(公益財団法人日本ダウン症協会)は、ダウン症のある人たちとその家族、支援者でつくる会員組織です。



アウェアネスリボンをご存知でしょうか。ダウン症のシンボルカラーはブルーとイエローです。リボンの形をしたアイテムを身につけ、様々な問題や障がいに対する支援表明をするものです。

公益財団法人 日本ダウン症協会
ホームページより参照
詳しくはこちらを



3月のあたごふれあいサロン

日時：3月22日(金) 13:30～

内容：クラフト講座「精油と天然素材でハンドクリームづくり」

講師：水谷由美子さん

参加費：500円程度

※参加される方は、3月11日(月)までに、
あたごふれあい人権文化センター (☎28-5440) へお申し込みください。

